



Until we are all equal



Funded by
the European Union



危機下の

思春期の女の子:

シウダー・ファレスにおける
移民政策の影響

要約

目次

はじめに.....	1
調査方法.....	3
結果.....	5
1. 移住の理由と移住傾向の変化.....	5
2. 移民政策が移動人口に与える影響.....	7
3. 移動する人びとの状況.....	10
3.1 不安.....	10
3.2 経済的恐喝.....	12
3.3 ジェンダーに基づく暴力(GBV).....	12
3.4 基本的ニーズの保障の欠如.....	13
3.5 子どもと思春期の若者の情緒的幸福への影響.....	14
3.6 「巡回する子ども」.....	15
3.7 雇用へのアクセス.....	16
3.8 サービスとリソースへのアクセス.....	17
3.9 法律相談サービス: 誤情報と不信感.....	17
提言.....	19
結論.....	22
備考.....	24

はじめに



移動中の女の子、思春期の若者、女性は極めて脆弱な状況にあり、彼らは特有のリスクと特別なニーズに遭遇している。移住政策に関する情報の欠如は、彼らの保護リスクを高め、彼らの生命に深刻な結果をもたらす。事実、メキシコ北部のチワワ州に位置するシウダー・ファレスでは、誘拐、恐喝、身体的暴力行為など、移民の女の子、思春期の若者、女性を狙った犯罪が増加している。このような違法行為は重大な影響を及ぼし、彼らの脆弱性を高め、精神的・身体的な幸福に悪影響を及ぼしている。更に、移民を取り巻く公的な言動は、移民に対する排外主義と敵意の風潮を助長し、彼らの脆弱性を高め、安全でより良い機会を求める努力を複雑にしている。

この診断調査は、シウダー・ファレスの国境で、移民政策が女性、子ども、思春期の若者に与える影響を詳細に分析したものである。その意味で、この研究は、重要な移住地点のひとつで移動するこの集団が直面する複雑さを包括的に探求するものである。

この診断で言及されている移民政策は以下の通りである¹。

- 第42号：トランプ政権時代の2020年3月に施行され、2023年5月に廃止されたアメリカの移民政策。COVID-19パンデミックのため、また公衆衛生面の観点から、移民集団の急速な追放を可能にした。
- 第8号：これは第42号に代わるアメリカの法律であり、2023年5月に施行された。これにより、米国国土安全保障省は米国国境に不法入国した個人を迅速に処理し、排除することができる。

¹ その他の移民政策への取り組みは報告書の最後に掲載されている。

- 税関・国境警備局(CBP)のアプリ「CBP One」は、難民申請手続きを管理するものだ。2023年1月より運用開始。10人の旅行者に限定され、申請処理には12時間の期限がある。その使用は「信ぴょう性のある恐怖面接」と呼ばれる選考面接によって補完される。

シウダー・ファレスに通じる移動ルートにおける暴力と安全性の欠如は、移動中の人びとに直接的な身体的・精神的危害を与えるだけでなく、公平で安全な難民申請プロセスへのアクセスにも重大な支障をきたす。合法的で安全な移住経路を作ることに重点が置かれていないため、移民は目的地に到達するためにより危険な経路を選ぶようになり、リスクや権利侵害に対する脆弱性が高まる可能性がある。

この診断調査は、シウダー・ファレス国境で移動する人びとの状況を改善するための提言を策定するための確かな基礎となる、現状の問題と可能性の概観を提供することを目的としている。本書は省察と行動を促すものである。それにより、人権の観点から移民にアプローチすることの重要性を強調し、採用された措置が、移住する全ての人、特に女性、女の子、男の子、思春期の若者の保護、幸福、安全、尊厳を促進することを保証する。



調査方法



社会政治的な文脈それ自体が暴力を意味する中では、女の子と思春期の若者がそのジェンダーと年齢によって経験するあらゆる状況での暴力を特に考慮に入れることが不可欠である。これを可能にする調査方法は、危機の様々な文脈における思春期の女の子の状況を分析するために、女の子と思春期の若者が、自身の生活に影響を与える問題の声であり、知識の源であることを認識し、ユース女性がその影響を様々な形で経験していることを裏付けるものでなければならない。

プラン・インターナショナルは、この調査方法を「Girls in Crisis」と定義している。これには次のような特徴がある。

- 調査に即して言えば、非差別、参加、説明責任、透明性の原則を取り入れ、反映させる、権利に基づくアプローチである。この枠組みは人権一般に基づくものであるが、女の子と男の子の権利に焦点を当て、特に、女の子と男の子に関する決定において彼らの声を聞かせる権利について述べている、「国連子どもの権利条約」(1989年)第12条に焦点を当てている。
- 思春期の女の子の権利の促進と彼女たちの力づけを調査プロセスの中心に据えるフェミニストアプローチ。これは、女の子が年齢、性別、ジェンダーに特有の形でどう危機を経験しているのか調べ、特定することで、行うことができ、そのためには、女の子の危機の語りを傾聴し、真剣に受け止めることが必要である。
- 思春期の若者たちが自身の知識を増幅させ、正当化しようとする努力に焦点を当てた調査枠組み。
- 可能であれば、思春期の若者の危機体験の多様性を認識する交差的アプローチを採用する。
- そして、知識基盤を確立するために、思春期の女の子の声や経験に依拠する、エビデンスベースの、そしてアクター主体のアプローチであること。この意味で、この調査は思春期の女の子を、彼女たちの生きた経験の「専門家」として受け入れている。女の子や思春期の若者の意見を正当化したり確認したりすることではなく、彼らの声を増幅させることを目的としている。

従って、本書『危機下の思春期の女の子：シウダー・ファレスにおける移民政策の影響』は、現在の移民動態の影響を受けている人びとの声と経験を含む多様な情報源を取り入れた調査方法を通じて、移民の傾向の変化、感情的・身体的な変化、移住中の子どもと思春期の若者の安全面での挑戦を明らかにしている。この調査結果は、影響を受ける人びと、特に女性、女の子、思春期の若者の幸福と包括的な保護を重視し、人権に焦点を当てた移民政策を改革する必要性を強調している。

プラン・インターナショナル・メキシコは、2023年11月～2024年2月にかけて、60人の移動中の思春期の若者と女性の証言と経験を聞き取り、シェルター、市民社会組織、国連機関、政府当局、ジェンダーに基づく暴力問題に取り組む団体など、30の主要団体²とのインタビューを行い、シウダー・ファレスとチワワで5つのフォーカス・グループを実施した。

調査の手段と調査方法は、シウダー・ファレスという特殊な状況に合わせて設計・調整され、プラン・インターナショナルの基準に従った保護、MERL(監視、評価、調査、学習)、データ保護と秘密保持の方針、および現地の倫理規範を遵守していることを言及しておくことは重要である。情報収集方法は、プラン・インターナショナルの倫理審査を経て承認され、評価の性質上、人道援助の文脈におけるMERLを専門とするチームとともに管理された。後者は、様々な調査方法に含まれる質問や力学が安全であり、移動中の参加者のプライバシーを侵害したり、精神的な幸福や安全を侵害したりしないことを保証した。

こうした理由から、調査を担当した専門家グループは、移住危機に効果的に対処するための提言を行い、移動する人びとを政治的・立法的決定の中心に据えることの重要性を強調した。彼らは、基本的なサービスへのアクセス、暴力や搾取からの保護、そして移動する全ての人の人権尊重を確保するための包摂的な措置の実施を提唱している。



² 参加団体のリスト: Save The Children, UNHCR, COESPO, IOM, DHIA, HIAS, IMMuj, ユニセフ, KIND, IRAP, DMRS, Las Americas, IRC, SINVIAC, ABARA, Preemptive Love, Casa YMCA, Oasis, Salem, Pasos de fe, Lirio de los Valles, Oscar Romero, Última Milla, Casa Hogar Migrante, Frontera de Gracia, Buen Samaritano, Consulado, El Refugio, Vida (Jesucristo), CEDIMAC, Doctors of the World.

結果



以下は、上記の調査方法を適用して得られた主な結果の要約である。

1. 移住の理由と移住傾向の変化

移住の主な理由は、暴力、基本的な生活必需品へのアクセス欠如、雇用機会探しなどである。図1に見られるように、32%の女性が、安全への懸念から出身国を離れたと回答している。この割合は、基本的な生活必需品が手に入らないことを理由に出国する21%と合わせると、53%に達する。従って、50%超が保護の必要性から出国していると推測できる。これは、仕事の機会や貧困の認識から国外に出るというパターン（歴史的な説明さえ）を覆すものである。暴力、迫害、出身国での限られた機会からの逃避が、移住の旅で不確かさや危険に遭遇する主な原因なのだ。女性は暴力のために逃亡し、移動中により多くの暴力に遭遇する。子どもや思春期の若者の場合も、図2に見られるように、出身国を離れる理由は暴力事件の発生と関連している(40%)。

図1: 移住の理由

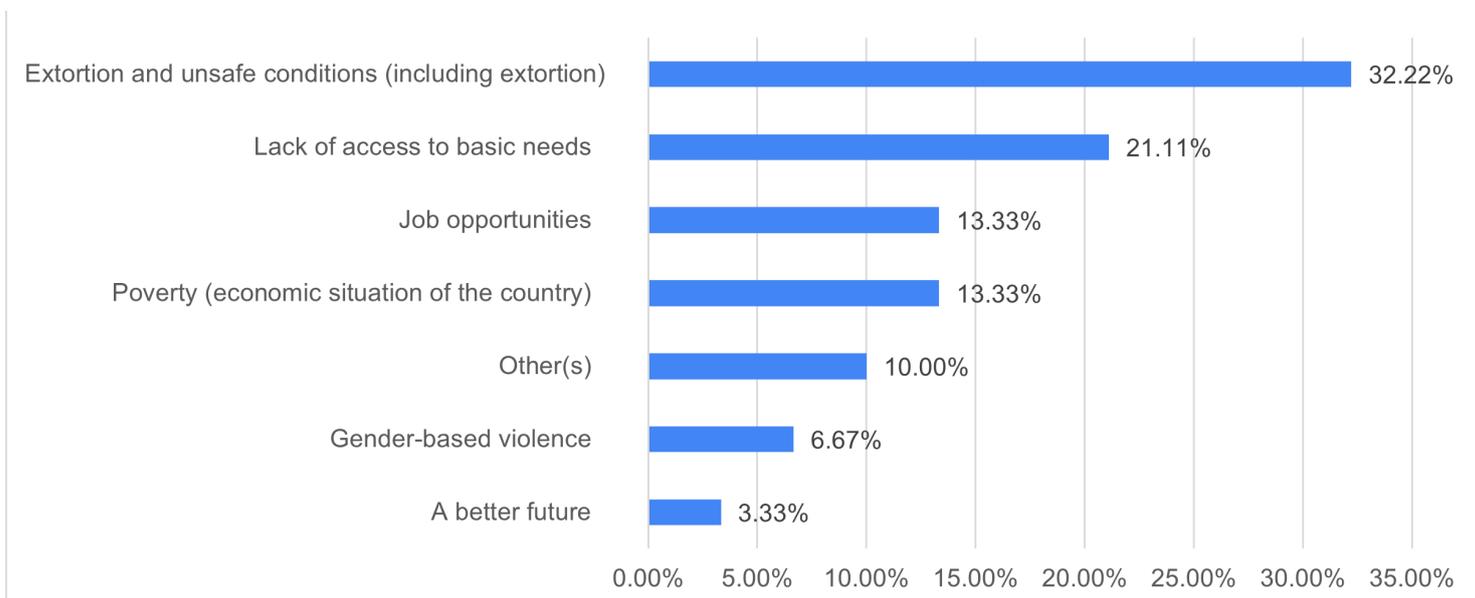
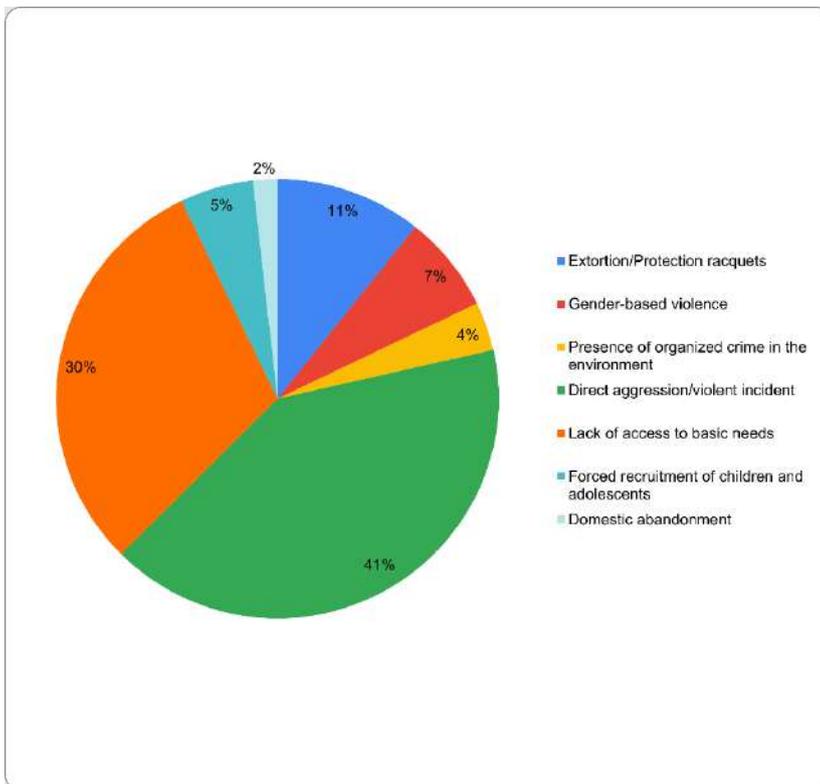


図2:子どもと思春期の若者の移住動機



出典:調査分析

移住計画に関して、インタビューに応じた女性の94.3%が、アメリカに渡れるようになるまでシウダー・ファレスで待つと答えた。このことは、2023年8月～2024年2月の間に、移民の動向に大きな変化があり、それが地元コミュニティと移動する人びとの双方に影響を及ぼしていることから、重要な意味を持つ。移民動向の変化は、ほとんどの場合、シェルターの人口が大幅に減少したことを意味し、定員オーバーの状況から、定員の50～70%で運営されるようになった。

この件に関して、あるシェルターの責任者は、「最近、少なくともシェルターへの移民の数が減っている。移民からシェルターやスペースを求める声は少なくなっています」と述べる。

主な傾向として、個人や家族はシェルターを避け、「不法入国」するために直接壁に向かっていく。人権団体 Integral Human Rights in Actionは、「彼らは、既に避難所から出たい、あるいは避難所について(否定的な)情報を得たため、定期的に避難所のスペースを探さないのだ」とコメントしている。

拘留所や入国管理局に対する認識もさまざまで、移動中の人びとの中には、寒さや十分な衛生サービスの欠如を強調し、不適當だと考える人もいる。

ABARAという組織は、「他の国では、この言葉の文脈が犯罪的に捉えられているのかもしれない。他の国で「シェルター」という言葉は、しばしば刑務所や監禁などを意味します。[...] 後に、私たちは彼らがなぜ(シェルターを避けるか)理解しました。私たちはよく『どうしてシェルターに入りたくないんですか』と尋ねたのですが、彼らは『何も悪いことをしていないのに、どうしてシェルターに入れるんだ』と答えたものです。ただ、そこでの『シェルター』は刑務所なんだ。だから、私たちは話し方を変えて、避難所が欲しいか尋ねなければならないのです」と述べた。

これらの情報を総合すると、脆弱な人びとにサービスを提供するスペースに適切な規定がないために、無報酬の強制労働、料金の請求、特定のサービスへのアクセス拒否の疑いなど、深刻な問題が生じていると主張できる。更に、一部のスペースでは、権力力学、保護違反やセクシュアルハラスメントの事例、シェルターと組織犯罪との共犯関係も報告されており、時には追加的な安全な住居として機能している。

2. 移民政策が移動人口に与える影響



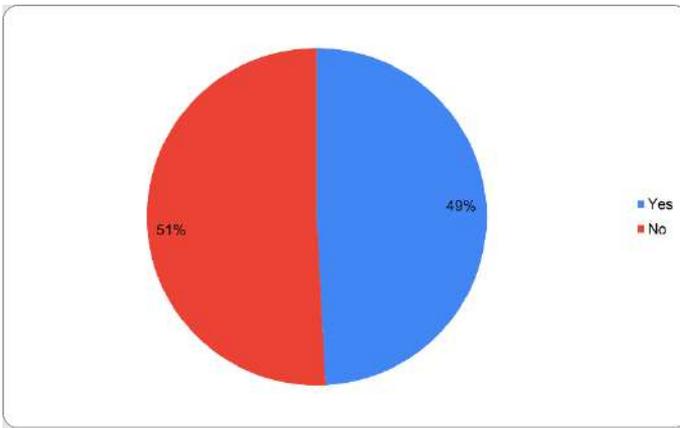
この調査で収集された情報から、現在の移民政策の適用による主な影響を5つ挙げる事ができる。

- a) 現在の政策は、複雑でアクセスしにくい手続きを行うことにつながっている。
- b) プロセス用のプラットフォームへのアクセス手段の欠如、およびその利用におけるデジタル格差の拡大: CBP One。
- c) 不定期的な通過が増加し、通過中の人びとの脆弱性が著しく高まる。
- d) ばらつきや裁量に左右されるプロセスが奨励される。
- e) 移動中の人びとの精神的・肉体的な幸福への影響。

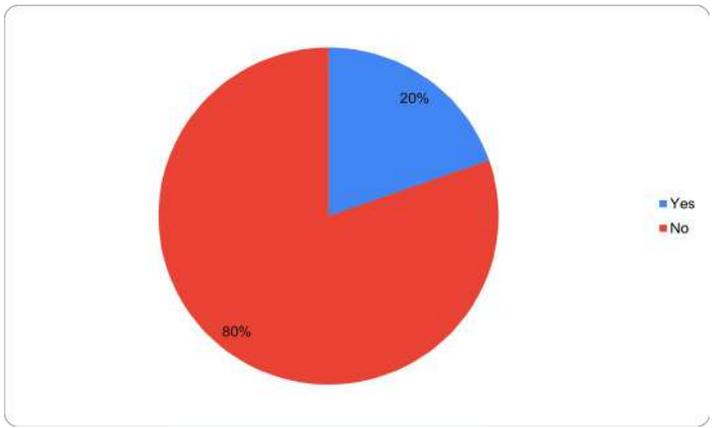
調査によると、メキシコを移動している最中の調査対象者の80%が、適切で入手可能な通過情報を持っていなかった(図4)。また、シウダー・ファレス滞在中、調査対象者の51%が適切な情報を得ていなかった(図3)。特に、米国の難民申請の手続きや書類について知る必要がある人が62%(図5)という結果が出ている。

図3: シウダー・フアレスで必要な情報を得る

図4: メキシコ通過中の適切な情報の入手

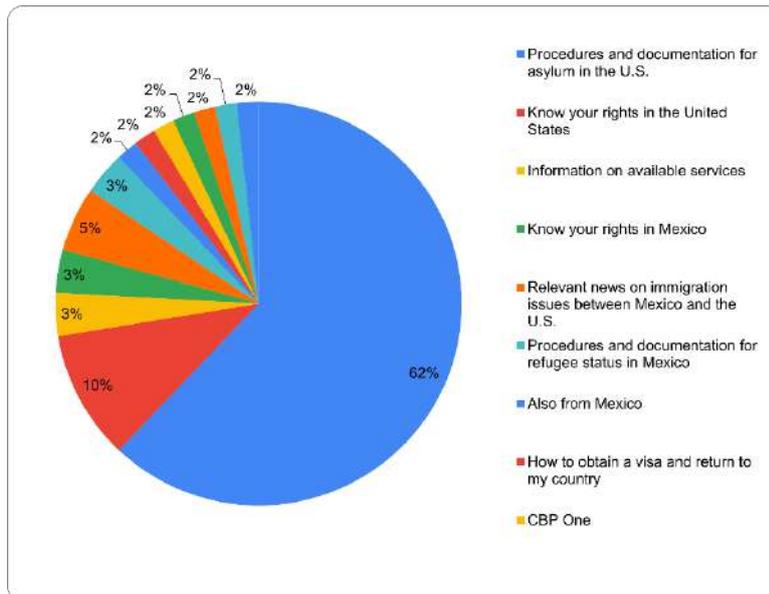


出典: 調査分析



出典: 調査分析

図5: 必要な情報

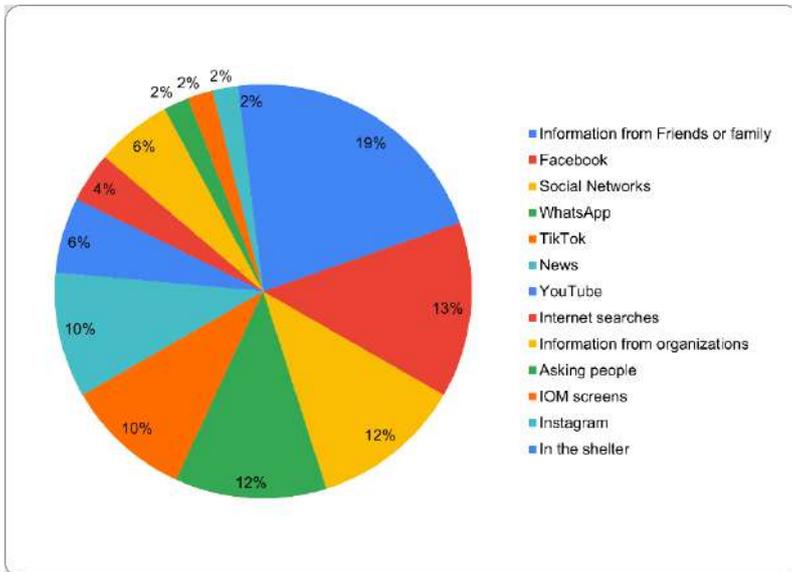


出典: 調査分析

言葉の壁や 誤情報は、移民にサービスを伝える際の大きな課題である。更に、信頼できる情報の欠如と噂の蔓延が、効果的な案内活動を複雑にしている。移民は、彼ら自身の間で共有されている情報に頼ることが多いが、それは誤解を招いたり、誤情報を生むことになりかねない。

図6を見ると、避難所での家族や個人との直接のやりとり(19%)や、移動中の人びとの間での口伝えによる勧めが、情報の拡散に重要な役割を果たしていることがわかる。また、Facebook(13%)やWhatsApp(12%)などのソーシャルネットワークの利用も、一般的な情報源となっている。

図6: 移動中の人びとの情報源



出典: 調査分析

調査データによると、調査対象者の47%がCBP Oneアプリを通じて面接をリクエストしていたが、31%が使い方を知らなかった。CBP Oneアプリは、アメリカのCBPによって運営されており、正式な入国港での面接の予約を行うための技術的な解決策として導入されたものだ。CBP Oneは、技術的、言語的、地理的な障壁のため、移動中の多くの人が利用しにくいと、批判も大きい。利用には、面接への長い待ち時間、低スペックの端末との互換性の欠如、利用可能な言語といった制約を伴っている。

これらの理由から、現在の移民政策とそれにまつわる誤情報は、心理的・感情的に重大な影響を与え、移動する人びとの脆弱性と絶望感を高めている。Hope Border 研究所は、今日の移民に対する特別な安全上の脅威は「アメリカの移民政策そのものであり、これらは集団にとって危険であり、彼らを待たせて危険にさらすものである。他のすべての影響は、移送と封じ込めという移民政策の付随的なものである」と指摘する。

第42号や 第8号のような政策をめぐる混乱から派生した誤情報や 性急な決断が、移動する人びとを変則的な越境に駆り立てており、彼らの脆弱性を高めている。シウダー・ファレスで活動する国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) は、「いつ面接の予約が取れるかわからないという不確実性は、人びとを悩ませ、非正規の手段により入国させ、強制送還や強制送還による処罰などの可能性を高めている」と指摘する。

移民の絶望感と鬱病は悪化している。Hebrew Immigrant Aid Societyは以下のように指摘している。「心理社会的なレベルで、多くの不満や絶望があり、人びとは疲弊しています。多くの誤情報があり、彼らはCBPの面接がどのようなものかを理解せず、何を予想すればいいのかわからず、それが即座に行われるものでもないことを知らずに到着しています」。

移動中の人びとは、しばしば国境フェンスや入国港付近の非公式の居住地で、廃屋や尊厳ある生活環境に欠ける避難所のような危険なスペースで、難民申請を求める機会を待つという劣悪な状況に直面しており、彼らの幸福と安全が懸念されている。

3. 移動する人びとの状況

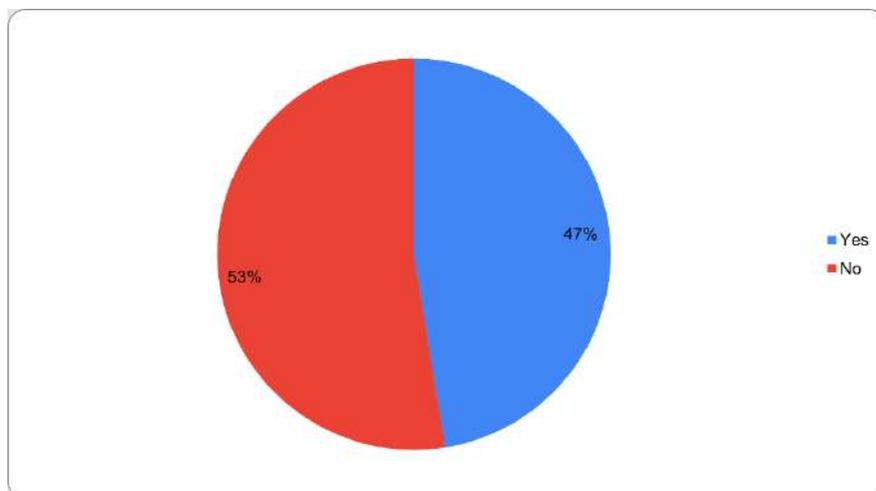


この調査の準備のために行われた情報収集では、移動中の人びとが経験する以下のような状況が確認された。

3.1 不安

情報調査の結果、移民の移動中には、様々な形態の暴力が存在することがわかった。「子どもや思春期の若者の人身売買や誘拐」、「組織犯罪」、「見知らぬ人からの性暴力」などである。これは、基本的なニーズが満たされていないことで、悪化する：「寒さ、食料不足」。これに関して、図7のように、調査対象者の53%が、メキシコを通過する間に、自身またはその家族が何らかの犯罪や治安上の事件の犠牲になったと回答している。

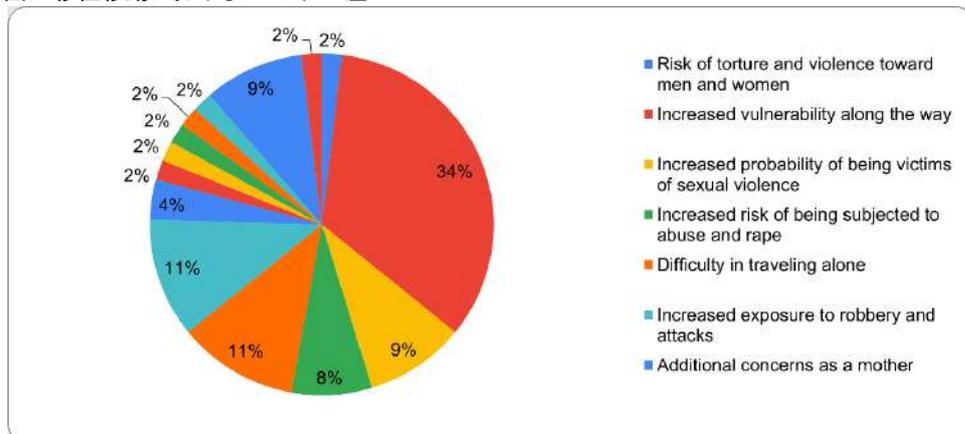
図7:メキシコを通過する際、治安上の問題に遭遇したか



出典:調査分析

調査によると、59%が、男性と女性では移住プロジェクトが異なると考えている。図8で明らかだが、34%の人が、ジェンダーが「移動中の脆弱性を高めている」と回答している。

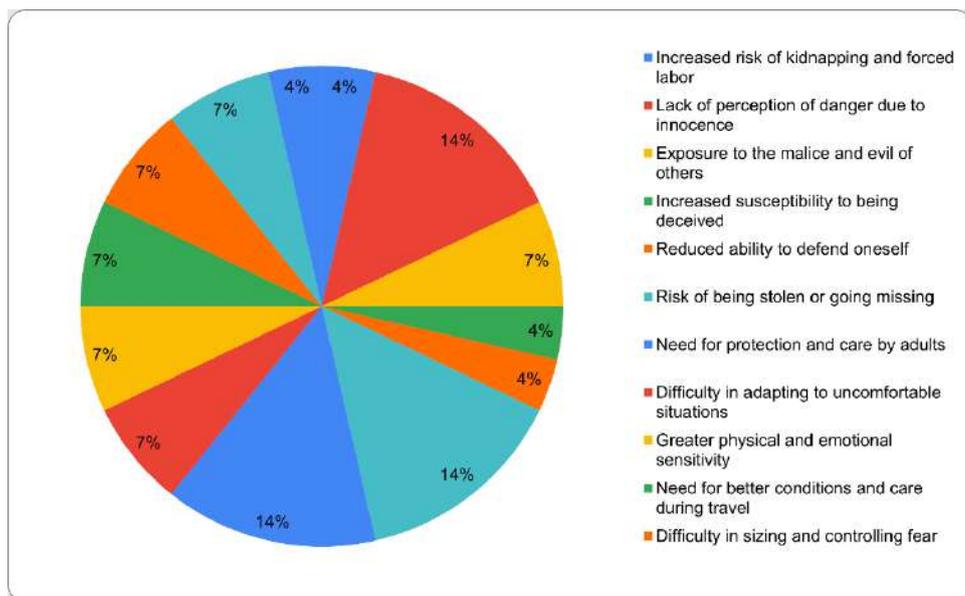
図8: 移住移動におけるジェンダー差



出典: 調査分析

更に、調査対象者の69%が、子どもや思春期の若者の移住経験もまた異なるものであると回答している。リスクは、失踪や強盗(治安リスク)にも関連している。

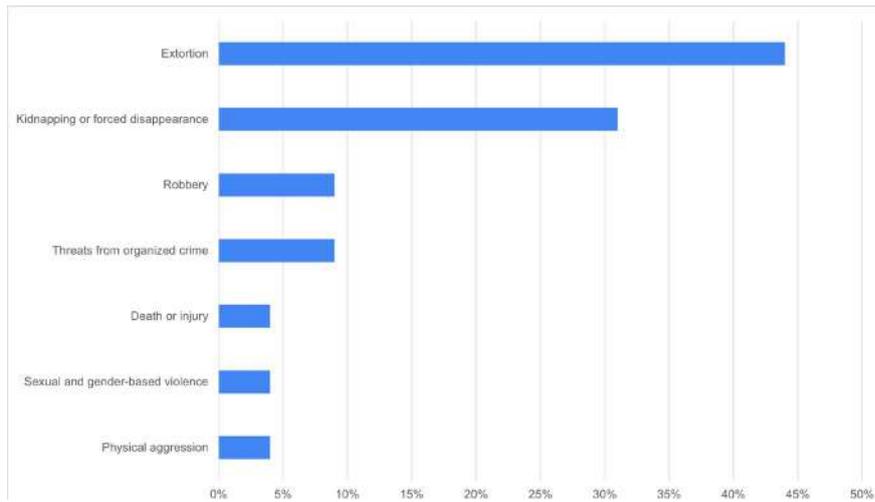
図9: 移住プロセスにおける子どもと思春期の若者の違い



出典: 調査分析

図10に示すように、調査対象者の28%が誘拐や強制失踪の被害を訴えている。現在、人びとの間で懸念されているのは、誘拐事件の驚異的な増加である。42号の施行からこの5年間で、これほど頻りに誘拐事件が報告されたことはない。例えば、ある女性が拘束されている間、何百人もの女性や子どもと倉庫のような空間を共にしていたと報告しており、このような場所は、この地域に数多くある場所のひとつに過ぎないことがわかる。移動中の何百人もの人が、日常的に誘拐されている。

図10:メキシコにおける保安事件の種類



出典:調査分析

人道支援活動家の中には、多くの人が一度に数ヶ月間、移動中を妨害され、誘拐されていることを観察している、と話す人もいた。ここ半年、特に5月以降、移動中の人を誘拐するケースが増加している。

3.2. 経済的恐喝

調査によると、人びとの40%が経済的恐喝に遭っている。インタビューでは、移住経路の様々な地点で組織的な恐喝のパターンが明らかになり、脆弱性と搾取のシナリオが示された。当局による恐喝は、様々な検問所で繰り返し行われている。人びとによると、移住経路の様々な地点を通過し続けるために、平均して一人当たり500メキシコペソの支払いを要求されるという。この種の組織的な恐喝は、彼らがさらされている脆弱性と、特定の当局による彼らの状況の搾取を示している。

飛行機で移動する人の場合、シウダー・フアレス到着時に、拘留されるのを避けるために、一人当たり100ドルをパスポートに忍ばせておくのが一般的だと報告されている。

このことはまた、経済的資源を持たずに目的地に到着することが多い移動中の人にとって、更なる困難を意味する。強盗や誘拐に加え、様々な国境地点での「手数料」の支払いは、彼らの限られた資源を枯渇させ、彼らの脆弱性を高める。

3.3. ジェンダーに基づく暴力(GBV)

GBV、特に性暴力は、彼らの旅路に関連するリスクとして目立っており、ユース女性が直面する脆弱性を指摘している。調査(図10)によると、調査対象者の4%がGBVを治安上の事件として報告している。この割合の低さは、この種の暴力の概念についての知識不足、あるいは識別方法を知らないことの結果かもしれない。

北部への旅の間中、多くの女性被害者や様々な暴力のサバイバーは、心身の健康への重大な無配慮に遭遇する。この見放された状況は、北へ向かう途中の危険な通路として有名なエル・ダリエンを通る途中で経験するような、極度に暴力的な状況で特に顕著になる。この暴力は女性の幸福に深刻な影響を与える。

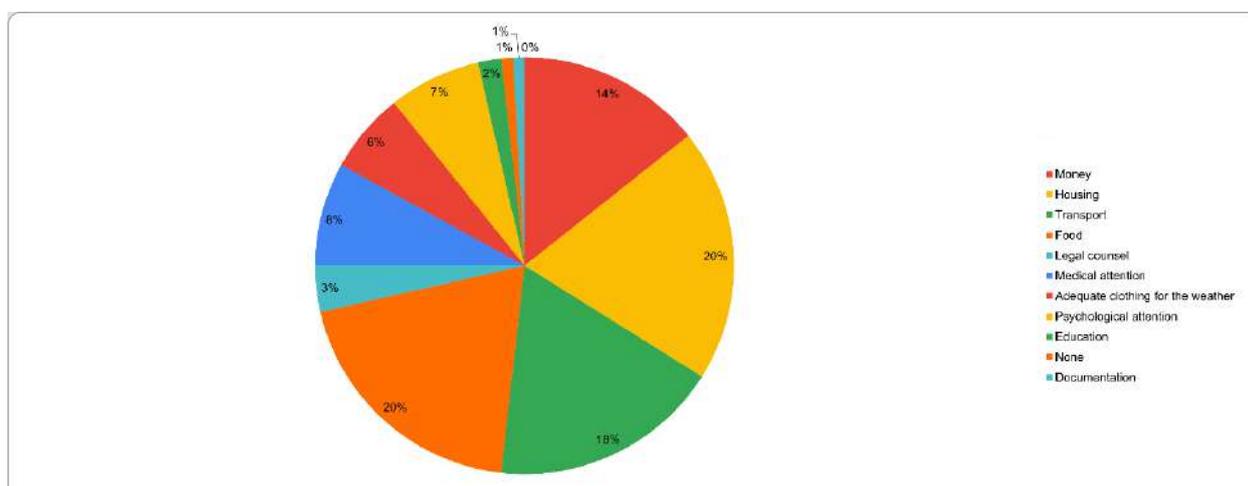
一部のサービス提供者は、暴力は移動中の女性が移動する前や移動中の場面に限ったことではなく、避難所の空間内でも発生していると指摘している。特に、家庭内暴力や女性の保護に関する問題は、こうしたスペースで生じる懸念事項である。

当局や司法制度に対する不信感が浸透しているため、多くの女性が受けた虐待の報告を控え、必要な保護や支援へのアクセスが一層制限されている。

3.4. 基本的ニーズの保障の欠如

この集団は、正規の教育を受ける上で大きな障壁に直面することが多いが、移住者という身分特有の困難がそれを更に困難にしている。図11によると、主なニーズは食料(22%)、保護施設(22%)、交通手段(20%)である。

図11: 基本的ニーズ



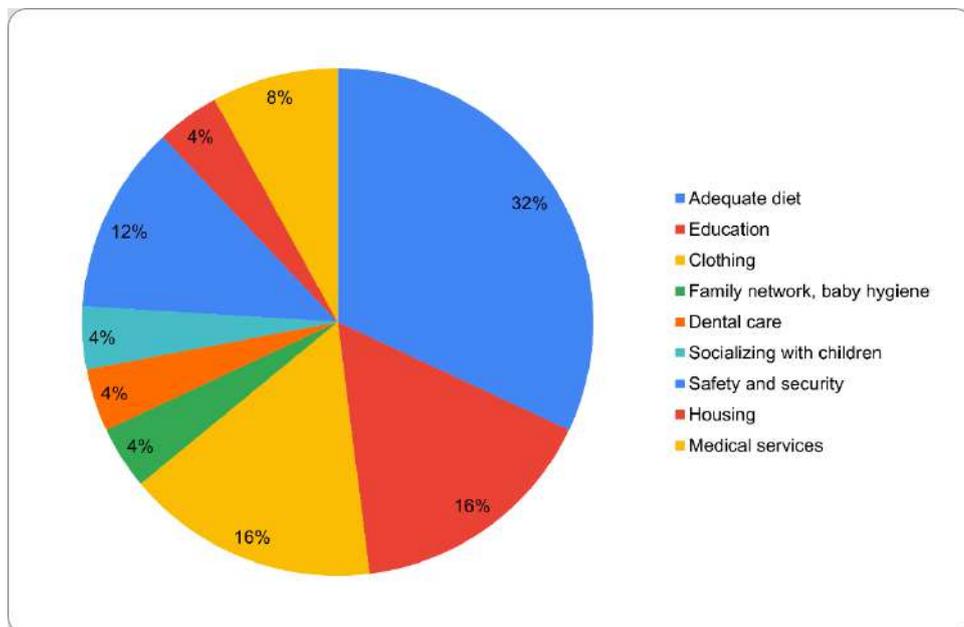
出典: 調査分析

メキシコのシウダー・ファレスでは、移民政策とそれが移動する人びとに与える影響の中で、特に女性、子ども、思春期の若者の教育問題が重要な課題となっている。ユニセフなどとの協力は、教育や心理社会的支援を提供することを目的としているが、正式な学校教育や教育的統合の面で大きな障壁に直面している。女性総合開発センターが述べているように、「問題は教育へのアクセスがないことであり、教育は非常に必要です。今現在、彼らの教育能力は大きく損なわれており、そこに到着した子どもは文字を読み、部分的に文字を書いていたが、今では何も読めず、自分の名前すら書けなくなっていて、劣化が見て取れます」。

この集団は、正規の教育を受ける上で大きな障壁に直面することが多く、移民という身分特有の困難がそれを更に悪化させている。

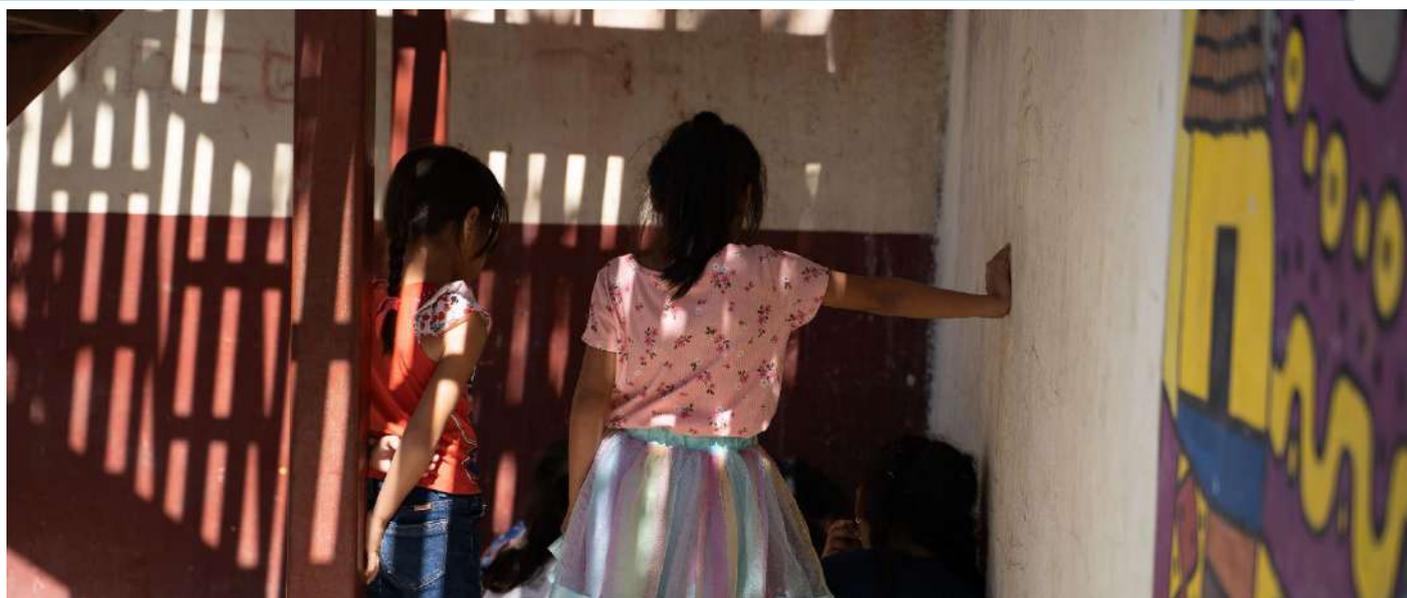
満たすべきニーズについて、調査データによると、60%が、移動中の子どもや思春期の若者には、彼らのニーズを満たすための特別・追加的なケアは必要ないと考えている。追加的なケアが必要だと考える人は、健康的な食べ物を求めている(32%)。

図12: 移動中の子どもと思春期の若者特有のニーズ



出典: 調査分析

3.5. 子どもと思春期の若者の情緒的幸福への影響



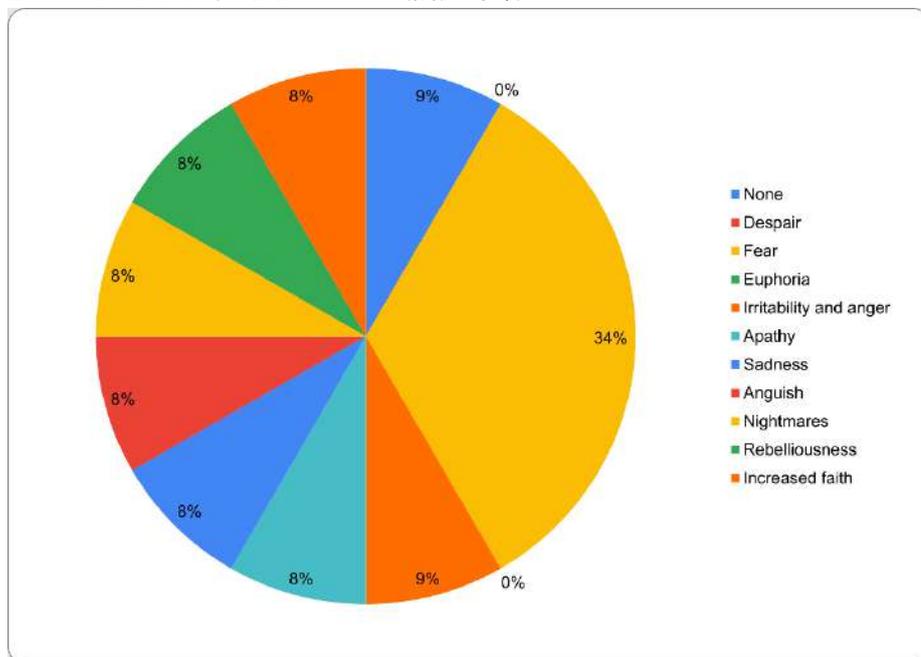
子ども思春期の若者に対する心理的ケアや教育は、重要なニーズとして浮上し、移動が情緒的幸福に与える影響を浮き彫りにしている。

避難所や中継所での長期滞在は、身体的な困難や基本的なサービスへのアクセスの困難を意味するだけでなく、子どもや思春期の若者の心理的・情緒的な幸福にも大きな影響を与える。時間が経つにつれて、この年齢層の絶望感や鬱病の症状は強まる。この状況は、大人が決断する移住の性質によってさらに悪化する。大人たちは、子どもたちを連れて、家族環境、友人、ペットからも離れ、不安と根無し草の渦の中に入っていくのである。

そのため、彼らは地理的な問題にとどまらず、感情的、情緒的な領域まで踏み込んだ複数の喪失に直面することになる。

調査結果(図13)によると、恐怖心(34%)、いらいらや怒り(9%)が、子どもや思春期の若者の情緒的な幸福に影響を与えている。

図13:子どもと思春期の若者への心理・情緒的影響



出典:調査分析

質的情報から、母親が報告した移住プロセスでの子どもや思春期の若者の経験も明らかになった。

「あの犬男には、私たちが経験したことを話してませんし、彼は事実を何も知りません…。彼は私たちが荷物をまとめているのを見ただけ、そして私たちはここから追い出されました」。

女性調査参加者

「年配の男はとても動揺していて、状況を理解してません。怖がらせないように嘘をつきましたが、なぜ彼らが銃を持って入ってきたのか説明を求めてきました」。

女性調査参加者

「子どもはこれを冒険として見ていると思う。私の11歳の息子はエル・ダリエンを楽しんでいる、危険の大きさを考えずに楽しいことだと考えていました」。

女性調査参加者

「何年もの旅で、彼は慣れてしまったのよ」。

女性調査参加者

3.6. 「巡回する子ども」

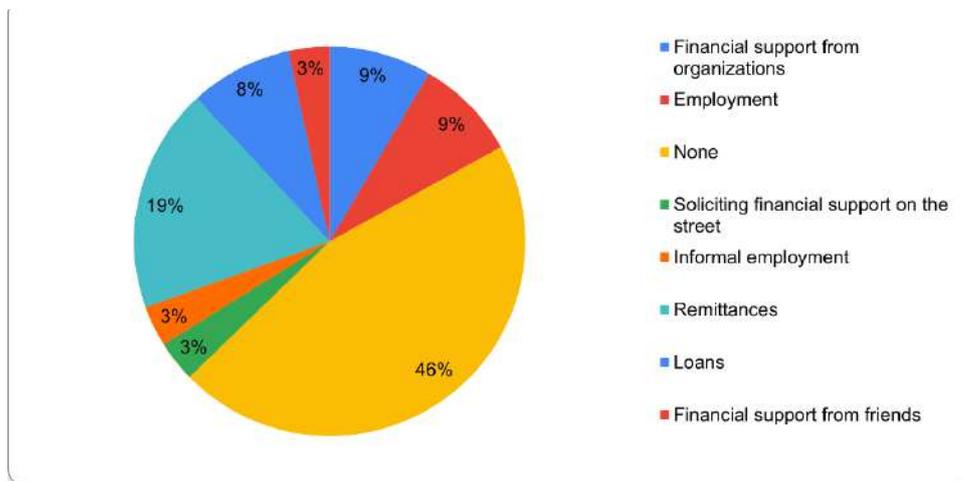
もう一つの明らかな増加は、子ども連れの家族の入国者数と、一人旅の子どもの入国が続いていることである。サービス提供者への聞き取り調査でも、少なくとも45回は「一人旅の未成年者」に触れており、半数以上が、越境を手助けする子どもの事例の増加と関連づけており、これを裏付けている。

この問題は極めて重要であり、更なる調査や個別の調査が必要である。「巡回する子ども」とは、非正規の国境越えを斡旋または助ける活動に関与する未成年者のことである。これには、他人が非正規の手段で国境を越えるのを助けたり、密輸品を国境を越えて輸送したり、人身売買ネットワークの仲立ちをししたりする活動が含まれる。

3.7. 雇用へのアクセス

移民の雇用源へのアクセスは、書類の欠如や法的障壁のために大きな制約があり、不安定な雇用を招き、移民、特に法的身分を持たない女性を搾取や人身売買の危険にさらしている。調査データによると、調査対象者の46%が失業している。労働者の受け入れは、社会経済的統合戦略の一部ではあるが、搾取や経済的暴力を受けやすい女性に不平等影響を与える特有の課題に直面している。

図14: 移動中の人びとの雇用へのアクセス



出典: 調査分析

特に移動中の女性は、男性と同様の制限のために大きな困難に直面しているだけでなく、ハラスメント、労働搾取、仕事場への移動中のリスク、組織犯罪との関わりといったリスクも加わっている。

育児の責任は主に女性にあり、特に託児所や保育制度などの支援インフラが存在しない場合、女性の求職・維持能力は制限される。

雇用主から積極的に求められ、仕事場と避難所を往復する交通手段という、女性が排除されているような恩恵を受けている男性に比べて、ジェンダー差別とケアワークが女性の雇用機会を制限する2つの決定的な要因となっている。

「唯一言えるのは、少なくともここでは、男性は交通の便があるので、働けるということです」。

外国人女性フォーカス・グループ参加者

「子どもと一緒にいなければならないから、働けない、他人に子どもを預けられません」。

外国人女性フォーカス・グループ参加者

3.8. サービスとリソースへのアクセス

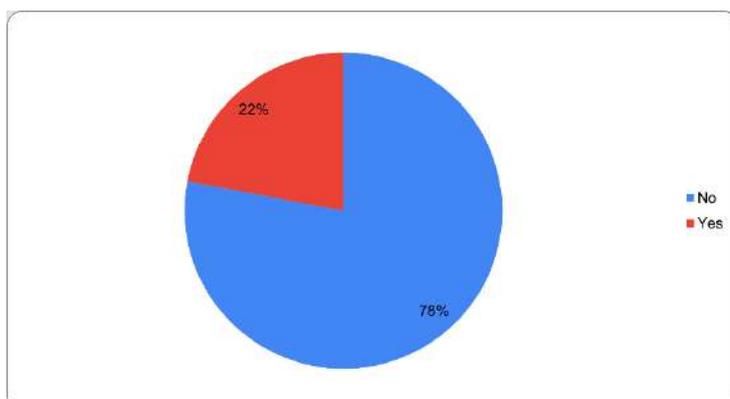
シウダー・ファレスでは、団体や組織が連携して、移動する人びとに安全と支援のネットワークを提供しているが、脆弱な人びとにサービスを提供するスペースに十分な規制がないため、安全性の欠如や、一部の人びと(ジェンダーの多様性を持つ人びとなど)に適応しないケアへのアプローチなど、問題のある状況が生じている。同様に、子どもや思春期の若者に教育を提供するための十分なインフラが整っていないスペースでもある。

この点に関して、KINDという団体は、最も緊急なニーズの中に「規制と改善の必要性」があり、それは「サービスの調整とアクセス、人権への配慮、避難所の規定の改善」を意味すると述べている。

3.9. 法律相談サービス: 誤情報と不信感

回答者の約3分の1しかアメリカでの難民申請手続きに精通しておらず、この重要な問題に関して、より入手しやすい情報と手引きが必要であることが明らかになった。

図15: アメリカにおける難民申請手続きに関する知識

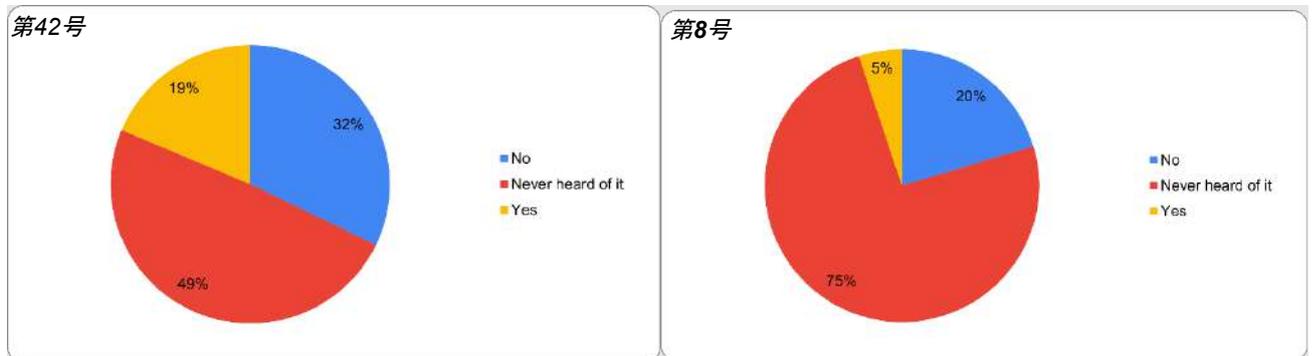


出典: 調査分析

更に、第8号と第42号に関する知識不足も散見される。回答者の49%が第42号を聞いたことがなく、73%が第8号についても知らない。

移民政策に関する法的指針の欠如は、移動中の女性、子ども、思春期の若者にとって重大な障壁である。移動中の人びとは、難民申請手続きなどの重要なプロセスについて知らされていないことが多く、アメリカが実施している第42号や第8号などの基本的な移民政策についてもまったく知らない。このような知識不足は、事前の法的助言がないことで更に深刻化し、複雑でしばしば敵対的な制度に対して脆弱にさせてしまう。

図16: 第42号と第8号に関する知識



出典: 調査分析

Dioscan Migrant & Refugee ServicesのImelda Maynarが「法的砂漠」と表現した、この情報格差は、法律や手続きが頻繁に更新され変更されるこの分野で、専門的で利用できる法的アドバイスを提供することの緊急性を強調している。

法的サービスの提供における重要な課題は、過去の負の経験、拘留や恐喝の危険性から、移民が当局に対して懐疑的で信頼がないことである。この不信感が法的サービスの利用と有効性を制限し、信頼できる組織の仲介が極めて重要となっている。

子どもや思春期の若者を含む移民は、移動の妨害や報復を恐れて当局に近づきたがらない。不信感は法律や治安システムとの関わりにも及んでおり、事前の法的説明や専門機関の支援の重要性が浮き彫りになっている。この点に関して、インタビューに答えた団体の90%超(30団体中29団体)が、移動中の人びとが移動中に困難に遭遇しても、メキシコの国、州、地方当局に頼ることはないことを確認している。更に、回答を掘り下げてみると、30%超の組織(30組織中12組織)が、最も再発する問題として不信感を挙げている。



提言:



シウダー・フアレス国境と、移動する人びと、特に女性、子ども、思春期の若者の状況において、彼らが直面する課題に対処するためには、多面的かつ協力的なアプローチを採用することが不可欠である。以下の勧告は、市民社会、アメリカ政府、メキシコ政府に向けられたものであり、移動する人びとの保護・サービス・司法へのアクセスを改善することを目指すものであり、特に脆弱な人びと、とりわけ子どもと思春期の若者の幸福に重点を置いたものである。

4.1 改善戦略

教育、保健、保護に対する権利と、これらのサービスを受けるためのプロセスについて、正確で入手可能な情報を提供することが極めて重要である。子どもや思春期の若者、女性、脆弱な集団に特有のニーズに対応する包括的な対応を提供するためには、様々な人道支援者と政府関係者の協力が不可欠である。

教育、保健、保護サービスは、文化に配慮し、アクセスできるよう適合させ、特にジェンダーの多様性と障害者にとって、安全で適切な空間を保証しなければならない。

移動する人びとが教育・保健・保護サービスを受けられるようにするには、各集団の脆弱性を考慮した専門的な配慮が必要である。つまり、既存の障壁を克服するための、協調的かつ適応的な取り組みが必要である。

4.2 アメリカ政府への提言

CBP Oneの見直しと改善

- € 初回登録時に予約が可能なようにアプリを調整すること。
- € 言語的な利便性、低スペックの端末に対する技術的な互換性、顔認証の使用を改善することを目的として、CBP Oneの徹底的な見直しを行うこと。
- € 面接が透明性をもって割り当てられるよう調整し、利用可能な支援窓口を設置すること。

CBP 局員の行動プロトコル

- € 健全な法的基準と効率的な慣行に基づき、CBP局員のための明確で首尾一貫したプロトコルを作成すること。これらのプロトコルは、国境の状況に対応し、特に非公式港での入国時に、局員の判断における裁量や混乱を減らすことを目指すべきである。

難民申請を求める選択肢の多様化

- € 国境で庇護希望者を遅延や拘留なしに処理できるシステムに投資すること。
- € 庇護希望者に住宅、社会サービス、法的助言へのアクセスを支援すること。
- € アメリカに難民申請を求める人びとのために、公正で効果的なプロセスを保証すること。

4.3 メキシコ政府への提言

誘拐と人身売買に関する法的調整

- € 誘拐の防止及び処罰に関する一般法、人身売買の防止、処罰及び撲滅並びにこれらの犯罪の被害者の保護及び援助に関する一般法を改正し、移動中の人びとの誘拐及び人身売買に対処する具体的な規定を盛り込むこと。
- € 人身売買業者による誘拐を、その複雑性と特殊性を認識し、特定の犯罪の分類として犯罪化すること。
- € 誘拐・人身売買事件の特定と訴追を向上させるため、関係当局に専門的な研修を提供すること。
- € これらの事案に特化した専門部署を設置し、被害者の支援・保護サービスへのアクセスを保証すること。

避難所の規定

- € チワワ州の移民とその家族の保護・支援に関する法律と、同州の官民社会扶助に関する法律を改正し、シウダー・ファレスで移動中の人びとにサービスを提供する避難所に関する包括的な規制の枠組みを確立すること。
- € 避難所の安全・プライバシー・サービスへのアクセスに関する最低基準を策定し、認証・監督機構を設けること。
- € 移動する人びとの権利を守るため、違反した場合には相応の制裁を科すこと。

移動する子どもや思春期の若者のための財政的正義

- € 移動する人びとのケアに特別な財源を割り当て、移民の子どもと思春期の若者の保護と基本的サービスへのアクセスを優先すること
- € 教育のテーマを強調するよう、文書を体系化すること。
- € 国境と通過する人びとのコミュニティの両方で、不正な越境に利用されるリスクがある子どもを早期に特定するための、明確で予算が充てられたプロトコルを策定すること。
- € 必須サービス利用を保証するため、州および連邦レベルで予算を計上すること。
- € 当該立法委員会における公的資源の監視と管理を推進すること。

4.4. 一般的な提言

二国間の支援ネットワークの強化

- € 協力的な二国間プラットフォームを開発し、メキシコとアメリカの政府が市民社会組織とともに、組織間および国境を越えた支援ネットワークを拡大・強化するための調整メカニズムを確立すること。これにより、包括的なサービスを提供し、国境の両側で移動する人びとのニーズに効果的に対応すること。

啓発キャンペーン

- € 移動する人の権利と彼らが享受できるサービスについての認識を高めるキャンペーンを実施すること。
- € コミュニティ・ワークショップや情報資料を多言語で提供し、さまざまな人に働きかけること。

メディアへの提言

情報発信に対する責任を果たすために、メディアは次のことを行うべきである

- € 発信する情報の真実性と入手しやすさを保証するための具体的な手段を採用すること。
- € 偽情報との闘いにおいて市民社会の味方になること。
- € 市民社会組織が信頼できる情報源として活動するための場を定期的に関き、その対象に応じて内容を簡素化すること。

結論



シウダー・ファレスの国境で移動する女性、子ども、思春期の若者に対するアメリカの移民政策の影響を調査した結果、深刻な人権侵害が目立つ複雑な現実が明らかになった。こうした政策の硬直性は、誤情報や十分なサービスの欠如と相まって、彼らの脆弱性・暴力・搾取・ネグレクトの状況を悪化させている。

収集された語りは、移民政策の焦点を見直し、移動する人びとの幸福と権利を優先することの緊急性を示している。移住の根本的な原因や女性、子ども、思春期の若者特有のニーズを考慮することなく、制限的な措置を実施し、国境を強化することは、彼らの危険な状況を悪化させる一因となっており、実施されている政策と国境における人道的現実との間の断絶を明白にしている。

危険な生活環境、暴力行為への暴露、教育・医療・法的助言といった基本的サービスへのアクセスの欠如は、最も脆弱な人びとの保護を怠ってきただけでなく、その保護の欠如を強めてきた移民政策の反映である。シウダー・ファレス移住ステーションで40人の人命が失われた悲劇は、現在の移住慣行と政策を倫理的かつ人道的に見直す緊急の必要性を強調している。

移民手続きに関する誤情報や CBP One のような技術の利用を義務付けることは、技術的、言語的、アクセス上の障壁に関係なく、難民申請や保護を求める人びとの状況を一層複雑にしている。

そのため、移動する人びとを決定の中心に据えることの重要性が強調されている。彼らの自主性を認め、強化し、移住のプロセスについて十分な情報を得た上で決定できるようにし、保護を求め、受ける権利を保障することが極めて重要である。提示された提言は、基本的なサービスへのアクセス、暴力や搾取からの保護、移動する全ての人の人権尊重を保証する、より包摂的で人道的な政策の創造を目指すものである。

この調査は、メキシコとアメリカにおける政治的・立法的課題の不可欠な部分として移民政策を再考するための行動を呼びかけるものであり、人権と包括的保護の観点から移民危機に対処する必要性を強調するものである。その実施は、移動する人びとの人権と幸福の保護に対する真の取り組みを反映するものであり、従って、この移動危機の多面的な側面に効果的に対処し、特に女性、子ども、思春期の若者にとって、人の移動が安全への道となる未来を築くために、現行の国内および国際的な規定で確立された原則の遵守を強化するものである。

ユース移民女性の証言：

「路上で眠るのは簡単なことじゃない、そうしたくてここにいるわけじゃない」。



Paola*はベネズエラ出身の24歳のユース女性で、より良い未来を求めて単身アメリカに移住している。高校5年生まで学んだが、国や家族の経済的困難のため、学業を断念せざるを得なかった。

「経済状況が悪化し、勉強を続けられなくなったとき、私は家政婦として一般家庭で働き始めました。家族に会い、働いているにもかかわらず、1ペソも稼ぐことができないのは悲しいことです。だから、そこから抜け出さなければならぬと自分を納得させるのです」とPaolaは言う。

移住経路

彼女は2度移住している。一度目はペルーで5年間働いた後、ベネズエラに戻り、二度目はアメリカへの移住を余儀なくされた。旅は容易ではなく、Paolaは2023年12月22日にメキシコに入国した。旅の途中、同じように移住していた数組の家族と出会い、一緒に旅をした。

「私たちはキャンプ用のテントを持ち、他に選択肢がないときは路上で寝ました。避難所や隠れ家を見つけて、私たちを受け入れてくれることもありましたが、たいてい路上で寝ていました」と彼女は言う。

メキシコ政府の「移民統計月報」によると、Paolaと同様、2024年の最初の2カ月間で[7万5千人超の女の子、思春期の若者、女性](#)が非正規の手段でメキシコに入国しており、移動中に特定のリスクや特別なニーズに直面し、非常に脆弱な状況に置かれている。

「私たちがキャンプをしていた午後10時頃、見知らぬ男たちがやって来ました。彼らは移民局の職員でも警察でもなかった。彼らは私たち全員をテントから出し、検査しました。夜明けに出発しろと言われたので、夜明けに出発しました」と Paola は言う。

国境にて

彼女の目標はアメリカに入国することだ。彼女は6ヶ月間旅を続け、今アメリカとメキシコの国境にいる、どう国境を越えるか決めなければならない。

合法的にアメリカに入国するためには、Paolaのような移民は、アメリカ税関・国境警備局が運営するCBP Oneアプリを通じて面接の予約を取らなければならない。「私自身は不法入国したくない、予約を待ちたいのです。ここで、私より長くここにいて、まだ待っている人に会いました」。

Paolaによれば、その手続きには数カ月かかることが多く、その間にメキシコ当局が彼女を帰国させるのではないかと恐れている。「苦勞して、お金もないのに、家族と一緒に旅をして、書類がないから送り返される人もいます。家の中で休み、食事をするのと、ここで路上で眠るのとは違う。ここにいるのは、ここにいたいからではないのです」。

より良い未来

Paolaは、移動中の多くの人と同じように、自身とベネズエラの家族がより良い未来を築くことを願っており、彼女は言う。「今の私の夢は、合法的に入国し、働き始めることです。学位を取って仕事をするのです。でも、勉強もしたい」。

Paolaは避難所でプラン・インターナショナルと出会い、食料、水、個人および月経衛生用品を購入するためのカードを受け取った。メキシコでは、同組織が同国の南部と北部の国境で人道的支援を行っている。また、利用可能なサービスに関する重要な情報や、特に女の子、思春期の若者、女性に焦点を当てた移民向けの個別説明も行っている。

*保護上の理由から名称を変更した。

移民政策:

Compilation of U.S. Migratory Events Part 1

U.S. - **Parole** for persons from Venezuela, Cuba, Haiti, and Nicaragua

Initiative that allows people of these nationalities to enter the U.S. under sponsorship and work legally for up to two years. It is not an asylum process.

U.S. - Use of **CBP One** application for asylum processes

As of January 2023, asylum seekers from certain countries must use CBP One to schedule appointments at ports of entry. Though not initially mandatory, CBP One is now essential to the asylum process.

U.S. - End of **Title 42**

Ended in May 2023, this policy allowed for the rapid removal of asylum seekers under the pretext of the COVID-19 pandemic, effectively closing ports of entry.

U.S. - Reinstatement of **Title 8 + Asylum Ban Rule**

Implemented in May 2023, this rule requires migrants to use legal channels to enter the U.S. and limits asylum for those who do not follow safe routes, with deportation and a 5-year re-entry ban for violators.

U.S.A. - **Family Expedited Removal Program (FERM)**

Expedited inspection process for detained families, with credible fear interviews without adequate legal counsel, and expedited deportation in case of a negative outcome.

Temporary Protected Status (**TPS**) **Venezuela**

Offers temporary protection and work authorization to Venezuelans in the U.S. before July 31, 2023, with restrictions based on criminal records or prior stays in a third country.

Compilation of U.S. Migratory Events Part 2

U.S. - "**Voluntary Return**" to Mexico without protection control

Strategy that pressures asylum seekers to voluntarily return to Mexico, avoiding formal asylum proceedings under threat of deportation and prohibition of re-entry.

U.S. - Militarization - **Operation Lone Star**

Texas initiative to reinforce border security with military deployment and physical barriers, facing criticism and legal action for its impact on migrants and federal law enforcement.

U.S. - "**Depressurize**" the border

Agreement to deport people from Venezuela, Cuba, Brazil, Colombia and Nicaragua from the U.S. to Mexico, and from Mexico to their countries of origin or other Mexican regions. Information on the process is scarce.

U.S. and Mexico - **Direct deportations to Venezuela**

Resumption of direct air deportations of Venezuelans from the U.S. and Mexico to Venezuela, beginning with a flight of at least 100 migrants in October 2023 following an agreement between Biden and Maduro.

U.S. - **SB4** or **Senate Bill 4**

Texas law that criminalizes irregular entry or re-entry into the state, authorizes detainment by police based on appearance, allows deportations and sentences of up to 20 years, and allocates \$1.5 billion to build a wall and border security.

Congressional and White House **legislative proposals** in exchange for foreign military funding

These include the tightening of immigration and asylum policies, such as expanding expedited removal, tightening credible fear criteria, implementing a permanent transit ban, a new Title 42-like removal statute, limiting asylum, ending humanitarian parole, and mandatory mass detention, in exchange for foreign military funding.

CBP One Update

During the past few months of this year, CBP has strengthened fraud prevention controls regarding the use of the application.

As of this latest update, the length of time for requesting an appointment has been reduced from 24 hours to only 12 hours, in addition to limiting registrations to a maximum of 10 travelers per group registration.

The elimination of duplicate registrations and of those that exceed the maximum number of travelers is now indicated.



Until we are all equal

プラン・インターナショナルについて

プラン・インターナショナルは、子どもの権利と女の子の平等を推進する独立した開発・人道団体である。私たちは、すべての子どもの力と可能性を信じているが、それが貧困、暴力、排除、差別によってしばしば抑圧されていることを知っている。そして、その影響を最も受けているのは女の子なのだ。

子ども、ユース、支援者、パートナーとともに、私たちは公正な世界を目指し、女の子や脆弱な子どもが直面する課題の根本原因に取り組んでいる。私たちは、子どもが生まれてから大人になるまで、彼らの権利を支援し、子どもが危機や逆境に備え・対応できるようにする。私たちの広がり、経験、知識を活用し、地域、国、そして世界レベルで実践と政策の変革を推進する。

85年以上にわたり、私たちは80カ国超で全ての子どもの生活を変えるために、決意ある楽観主義者を結集してきた。

皆が平等になるまで、私たちの活動は終わることはない。

Plan International Mexico

-  plan-international.org/mexico
-  facebook.com/planinternationalmexico
-  twitter.com/plan_mx
-  instagram.com/plan_mex
-  linkedin.com/company/plan-international-mexico
-  youtube.com/user/plan_mx

Published in 2024.

Text and photographs: © Plan International unless otherwise indicated.

Cover photo: © Plan International

All the photographs used in this report depict girls and/or adolescents who are part of Plan International projects, and have authorization for their use. It should not be inferred that they are victims of any kind of violence and/or abuse.